

# 公開実用平成 2-34486

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平2-34486

⑥ Int. Cl.<sup>9</sup>

B 85 D 83/08  
A 23 L 1/00

識別記号

庁内整理番号

C 7214-3E  
G 6828-4B

⑧ 公開 平成2年(1990)3月5日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑬ 考案の名称 口中清涼フィルム容器

⑭ 実 願 昭63-113858

⑮ 出 願 昭63(1988)8月30日

⑯ 考 案 者	尾 島 光 春	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑯ 考 案 者	吉 成 昌 三	東京都豊島区高田3丁目24番1号	大正製薬株式会社内
⑰ 出 願 人	大正製薬株式会社	東京都豊島区高田3丁目24番1号	
⑱ 代 理 人	弁理士 河野 茂夫		

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

口中清涼フィルム容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

トレイ状の本体とこの本体に適合するスライド蓋からなり、前記本体とスライド蓋の両側端部において、一方には前記スライド蓋のスライド方向に沿う溝を形成するとともに他方にはこの溝へスライド方向にのみ可動な状態で嵌合する凸部を形成し、前記本体内の一端部に多数枚重ねた口中清涼フィルムの一端部を本体の内底へ押える押え片を設けたことを特徴とする、口中清涼フィルム容器。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 「産業上の利用分野」

本考案は、可食成分よりなるフィルムに、メントールその他の清涼剤を含ませた口中清涼フィルムを収納してこれを携帯し、必要に応じて内部の口中清涼フィルムを切り取って使用するための容器に関するものである。



「従来の技術」

口中清涼フィルム携帯用の容器ではないが、薄いフィルムを重ね状態で収納して携帯し、必要な時に内部のフィルムを取り出して使用する容器には、例えば実開昭58-171624号公報で開示されているように、方形の容器本体と蓋とをヒンジによって蝶着し、容器本体の前小口に切欠きを形成し、容器本体内にはそれに適合するように裁断された多数枚の紙白粉を重ねて収容し、必要に応じ前記紙白粉を一枚ずつめくり取って使用するように構成したものがある。

「考案が解決しようとする課題」

前記のような紙白粉用の容器を口中清涼フィルムの携帯用容器に使用すると、口中清涼フィルムは極めて薄いために、フィルムを指でめくる場合多数枚のフィルムが一度にめくれて、定量ずつ（例えば一枚ずつ）取ることが困難である。

また、蓋は容器本体へヒンジで取付けられているため、蓋の開閉を片手では操作しにくい問題があった。

本考案の目的は、このような問題を解消した口中清涼フィルム容器を提供することにある。

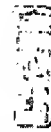
「課題を解決するための手段」

本考案は前述の目的を達成するため、トレイ状の本体と、この本体に適合するスライド蓋を設け、本体とスライド蓋の両側端部において、一方には前記スライド蓋のスライド方向に沿う溝を形成するとともに他方にはこの溝へスライド方向にのみ可動な状態で嵌合する凸部を形成し、前記本体内の一端部に多数枚重ねた口中清涼フィルム的一端を本体の内底へ押える押え片を設けたものである。

本体及びスライド蓋は合成樹脂で構成し、かつ、本体は浅い方形のトレイ状に形成するのが望ましい。

「作用」

本考案に係る口中清涼フィルム容器によれば、所定の大きさに裁断して多数枚重ねた口中清涼フィルムを、その一端部を前記押え片により本体の内底部に押えて固定した状態で収納する。



そして必要なときは、スライド蓋を本体に対してスライドさせて開け、本体の内部に収納されている口中清涼フィルムを、固定されていない側の端部から一枚ないし数枚ずつめくり、押え片に沿うように切り取って使用する。

多数枚重ねられたフィルムは、一端部が押え片によって本体の内底部へ押えられて安定しているので、一枚ずつ又は所望枚数ずつ容易にめくって切り取ることができる。

また、本体及び蓋を手のひらに載せられる程度の大きさにすれば、片方の手で持って蓋の開閉操作をしながら他方の手でフィルムを切り取ることが容易である。

#### 「実施例」

以下図面を参照して本考案の好適な実施例を説明する。

本体 1 は適当な合成樹脂で浅い長方形のトレイ状に形成し、その両側部に奥行方向へ凸部 11 を形成している。

本体 1 内には、適当な大きさにかつ方形に裁断

して多数枚重ねた口中清涼フィルム3を収納し、その後端部を板状の押え片4により本体1の内底部へ押え付けた状態で固定している。

この実施例において、押え片4はその両端を本体1の最奥部両縁に埋めた状態で固定し、第2図で拡大して示すように、押え片4の裏面にフィルム3を貫通するピン5を突出させ、フィルム3を圧縮するように押え片4を本体1の底板13へ押し付け、この状態でピン5の鉤状頭部51を底板13に形成した孔14の周縁に係止させることにより、口中清涼フィルム3の一端部を本体1の底板13へ押えて固定する。

スライド蓋2は本体1と同色の合成樹脂により当該本体1にほぼ適合する大きさに形成し、両側の内側に本体1の前記凸部11がスライド自在に嵌合する溝21を形成するとともに、後端部に縁板23を設けている。

第3図で例示するように、本体1における凸部11の前端部下面、及びスライド蓋2における溝21の前端部の側縁には、本体1に対し蓋2を重ねる



状態までスライドさせたとき、互いに軽く係止されるように小突起12, 22を形成し、蓋2を閉めた状態において当該蓋2が自然にスライドしないようになっている。

この実施例の容器は、本体1に蓋2を閉めた状態において、全体の厚みが約5mm、奥行きが約50mm、横幅が約90mm程度のサイズに形成し、例えば第5図のように全体を片方の手6の親指61と他の指62の間に挟んで持ち、親指61で蓋2を後方へスライドさせることができるように構成しており、第4図のように蓋2の前端が押え片4の位置に達するまでスライドさせ、適当な部分の口中精涼フィルム3を他方の手の指でめくり、押え片4の前縁41に沿うようにフィルム3を千切り取って使用する。

フィルム3は端部が押え片4で押えて固定されるため、一枚ずつないし所望枚数ずつ容易にめくって切取ることができ、しかも、蓋2の開閉を片手で操作することができて非常に便利である。

この考案においては、前記の構成に代えて、例



えば第6図のように本体1の両側端部上面にあり溝状の溝21を形成し、蓋2の両側端部下面に、この溝21に嵌合してヘスライド方向にのみ可動なあり内状の凸部11を形成しても実施することができる。

#### 「考案の効果」

本考案に係る口中清涼フィルム容器は、トレイ状の本体にスライド蓋を設けたものであるから、蓋の開閉を片手で操作することができて便利であり、また、多数枚重ねた口中清涼フィルムは、一端部が押え片により本体の内底へ押えて固定されるので、一枚ずつ又は所望枚数ずつ容易にめくって切り取ることができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る容器の一例を示す分解斜視図、第2図は第1図において蓋を開めたときの矢印A-Aに沿う拡大断面図、第3図は第1図の容器の部分底面図、第4図は本体内の口中清涼フィルムをめくり取るときの蓋の開き具合を示す部分斜視図、第5図は蓋をスライド操作する状態の



斜視図、第6図は溝と凸部の変形例を示す部分斜視図である。

主要図中符号の説明

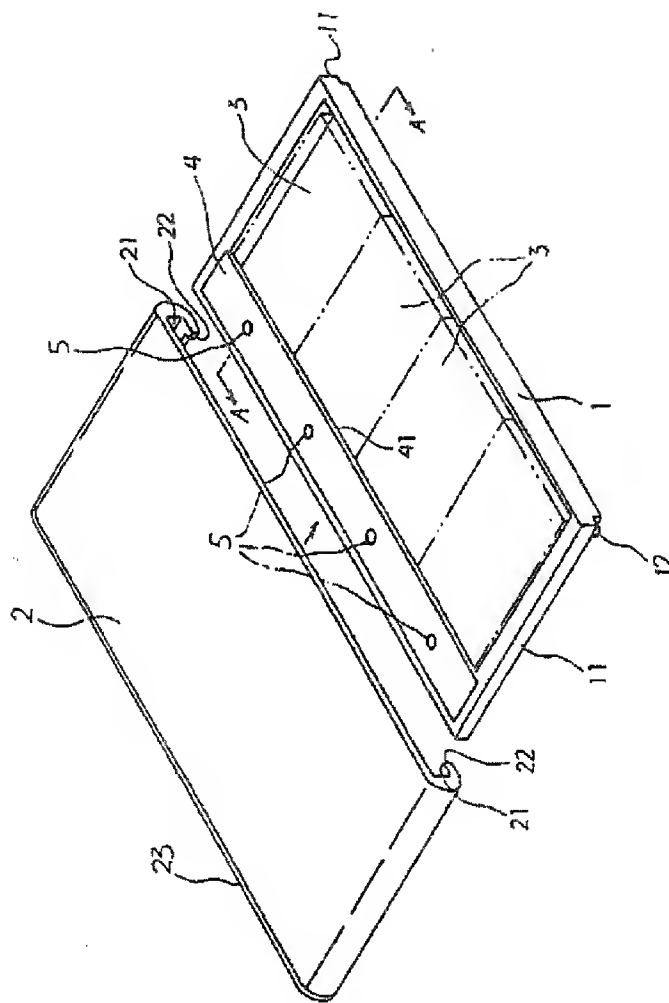
1は本体、11は凸部、13は底板、2はスライド蓋、21は溝、23は縁板、3は口中精擦フィルム、4は押え片である。

実用新案登録出願人 大正製薬株式会社

代理人 弁理士 河野茂夫

公開実用平成 2-34486

第 1 図

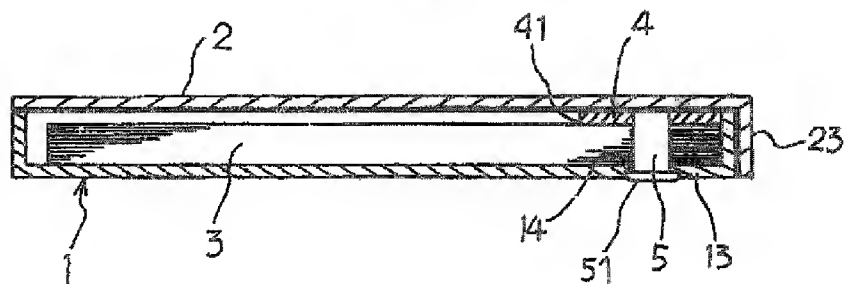


1072

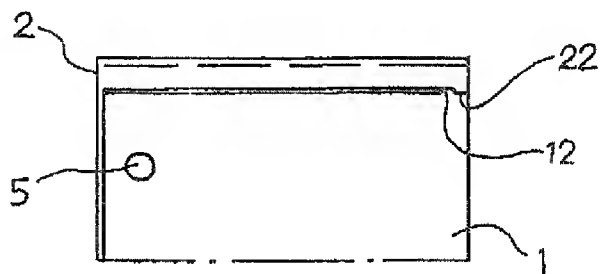
出願人代理人 弁理士 阿野茂夫

実開 2-34486

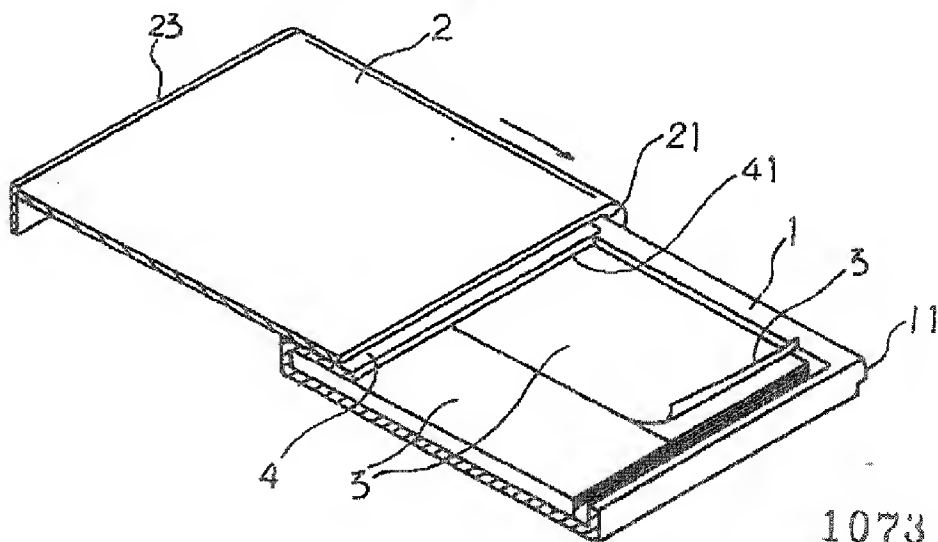
第 2 図



第 3 図



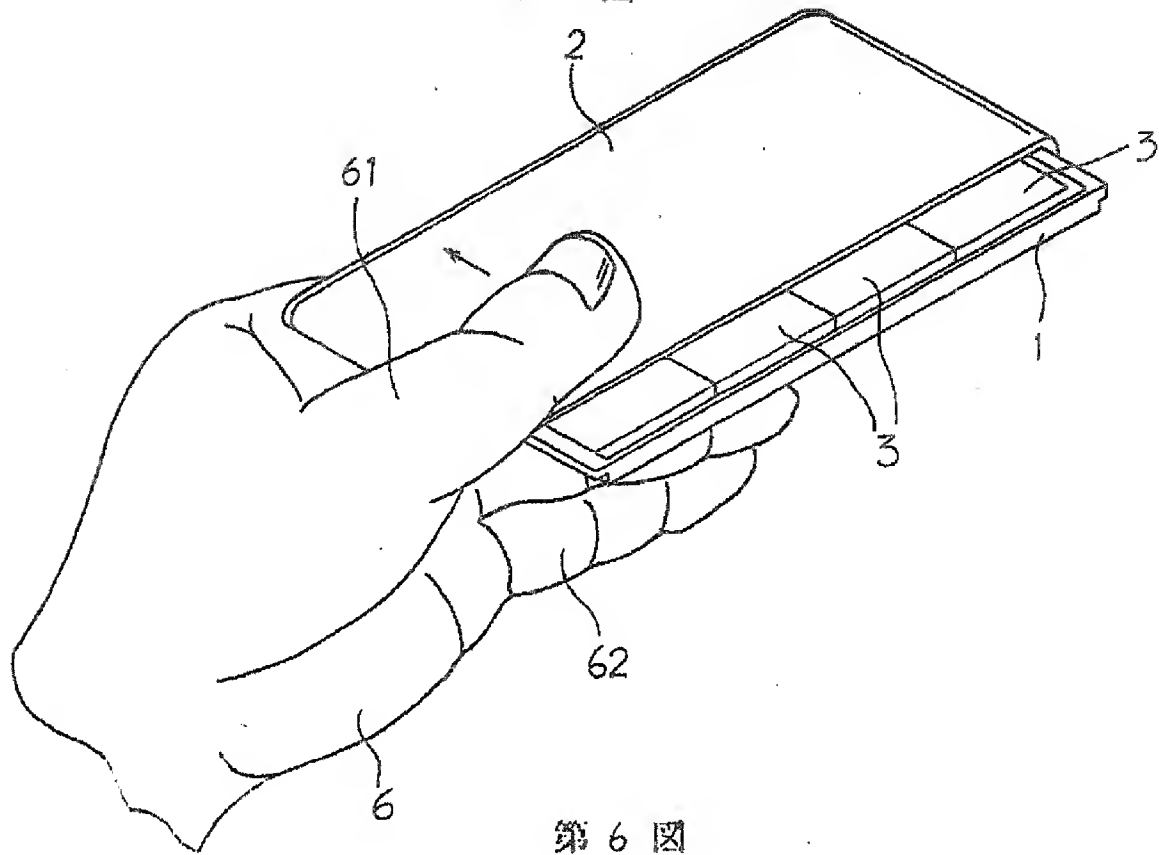
第 4 図



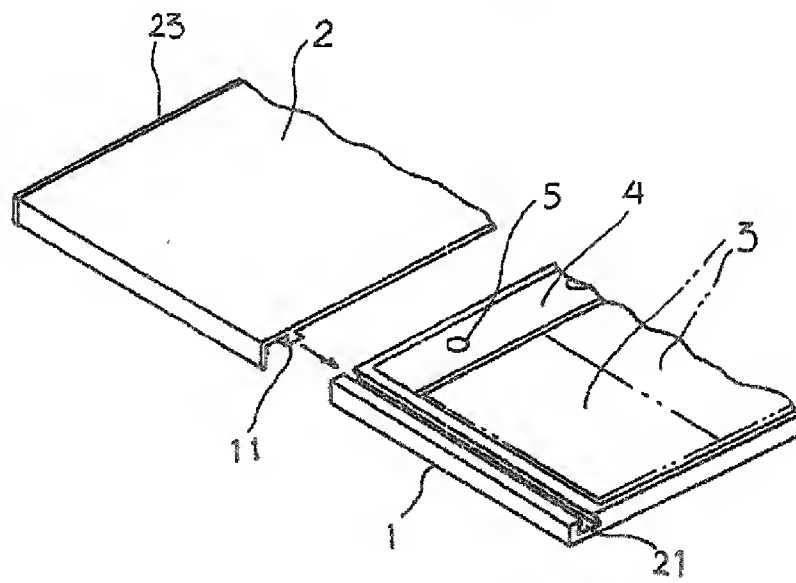
1073



第 5 図



第 6 図



1074

出願人代理人 弁理士 河野茂夫  
 実開 2- 34436

